

従来の大型フェンスが苦手とする急流、浅流、護岸などで、油の流下拡散をしっかり防ぐことができます。

RAPIC OIL FENCE

ラピック オイルフェンス

小型で高性能のパラペットフェンスと油吸着力と制渦力をもつラフトフェンスをプラスできる 新発想のコンビネーション型オイルフェンスです。



寸法

	寸 法	重 量
パラペットフェンス	長さ 2 m 幅 15cm	1.5kg/本
ラフトフェンス	長さ 2 m 幅 8 cm	0.5kg/本

荷姿

パラペットフェンス、ラフトフェンス 各 5本
= 5ユニット (接続時10m)
50cm × 50cm × 50cm 段ボール箱入 (約11kg)
(補充用など 個別バラ売りもいたします)



材質

●パラペットフェンス (緑色)

外 装 : ターポリン
チェーン・蝶ボルト・蝶ねじ・板材 : 鉄 (亜鉛メッキ)
シャックル (チェーン接続金具) : ステンレス
浮 体 : 発泡ポリエチレン

●ラフトフェンス (白色)

外 装・紐 : ポリエステル
吸着材 : スミレイ (コーヒー豆焼成浮遊活性炭化物で一旦吸着した油を再放出しません)
浮 体 : 発泡ポリエチレン (油で劣化しにくい素材です)

パラペットフェンスは、 単体でも大型フェンスと同等の油防除力を持ちます

●大型オイルフェンス (オレンジフェンス) と同じく、流速0.2m/秒まで軽油・A重油・作動油などの低粘度油の潜り抜けを防ぐことができます (1本だけ「U字」 (直角) 展張した場合)。

●しかも水深の浅い場所でも使えます。

●また、パラペットフェンスは0.75kg/mと軽量なので、少人数でも迅速に防除力の高い「斜め」「二列平行」展張ができ、実際には流速0.4m/秒の河川でも油を止めることができます (30度の鋭角展張の場合)。



●川幅の広い場所では数本を連結します (チェーンで荷重を受けますので丈夫です)。

現場にあわせて長さに簡単に調節できます。

0.5mごとに折りたたむことができるので、連結したままでも保管場所をとりません。

●オレンジフェンス同様、万一の油流出に備えて予防的に日頃から展張しておくこともでき、再利用もできます。

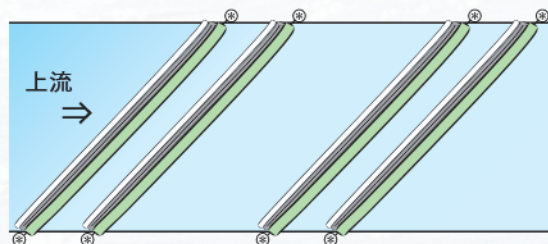
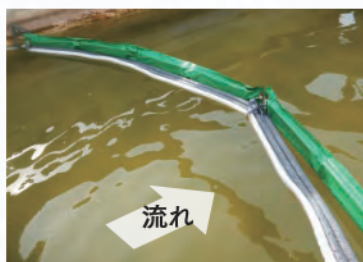


パラペットフェンスにラフトフェンスを接続すると、 防除力がさらにアップします

●流速 0.25mの流れを直角に受けても、油が潜り抜けなくなります。

●「二列平行」「斜め」展張なら 0.5m/秒 (1ノット) の急流でも油を止めることができます (30度の鋭角展張の場合)。

●距離をあけて数段に展張すれば、それ以上の急流でも油を止められます。



なお、ラフトフェンスは油吸着能力をもちますが、量的限界があります。

また、多量の油を吸着させると、急流 (たとえば30度鋭角展張なら0.7m/秒以上) では沈下します。

従って、流出事故時などには、ラフトフェンスの上流側に、浮力の強いオイルマット (活性炭系、微細繊維系など) を浮かべ続けておくことをお勧めします。

注 オイルマットは油を吸うと浮力が落ちて、どのようなオイルフェンスでも潜り抜けやすくなります。

従って、急流では特に浮力の強いオイルマットを使うことが必要です。



ロープの取り付けかた (ロープはパラペットフェンスだけに取り付けます)

①パラペットフェンス端部の板金 (1枚) の下に白布テープをはさみ、その白布テープで直径約7cmの輪を結ぶ。輪をフェンス上部によせ、蝶ネジを締めて位置を固定する。[この形で出荷します]



②①の輪を通してから、パラペットフェンスの下端のD(ディー)シャックルにロープを結ぶ。
(輪を通しておかないと、空中でフェンスがひっくり返ります。)



なお、白布テープは表裏どちらの板金にはさんでもかまいません。

パラペットフェンス同士のつなぎかた

(想定される川幅に合わせ あらかじめ何本かつないておくといざというとき便利です)

- ① 連結する側の板金、蝶ボルト、蝶ナット、白布テープを、両方のフェンスからとりはずす。
- ② 両方のフェンスを、ボルト穴が合うように左右から寄せて、板金2枚ではさみ、2組の蝶ボルト・ナットで締めて、隙間がなくなるように締める。



②



- ③ 両方のフェンスのDシャックル同士をつなぐ。
その後、シャックルピンのゆるみ止めのため、ビニールタイをDシャックルに巻きつける。

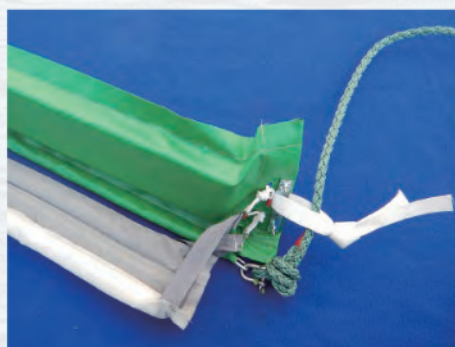
③



ラフトフェンスの取り付け方

※ラフトフェンスがつく側が上流になることに気を付けてください

- ラフトフェンスの短いグレーテープはパラペットフェンスの下側の白ひも輪にクリップ。
- ラフトフェンスの長いグレーテープはパラペットフェンスの上側の白ひも輪にクリップ。



尚、ラフトフェンスにはロープを結びません。ラフトフェンス同士を接続することもあります。

ラフトフェンスの浮かべ方

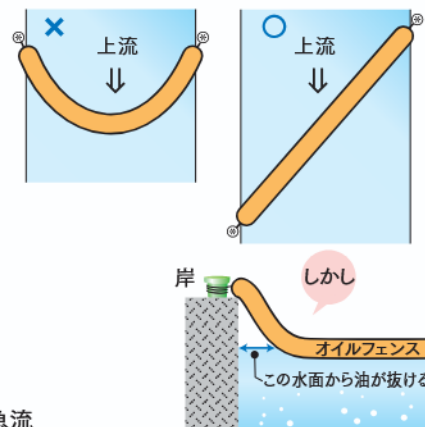
- パラペットフェンスの上流側に平行に「いかだ」のように浮かべます。
ラフトフェンスの浮体(白)は上流側、吸着材(黒)は下流側(パラペットフェンス側)になります。



ブランディング 水面と岸に段差がある場合も「分岐接続」で 油の潜り抜けを確実に防ぎます (独自技術)

コンクリート張りされた用水路などでは、岸が高くなっていることがあります。そのような場所では、防除力の高い「斜め」展張ではなく、防除力の低い「U字」展張をやりがちです。岸近に油を誘導すると、引き上げられたオイルフェンスの下を油がぐり抜けるからです。

しかし パラペットフェンスは、切り立った岸辺でも、油のくぐりぬけを容易に防ぐことができます。



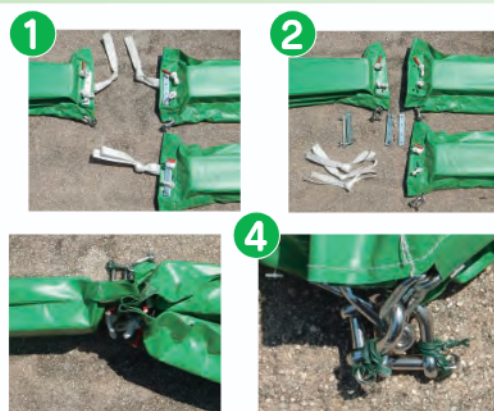
緩流



急流

パラペットフェンスの分岐接続の方法

- ① 川側から1本、岸側から2本のフェンスがやってきて向かい合うように並べる。岸側に必要なフェンスの長さは、落差0.4mごとに2m(1本分) 追加される目安です。
- ② いずれのフェンスについても、(連結する側の)板金、蝶ボルト、蝶ナット、白テープをとりはずす。
- ③ 3本のフェンスのボルト穴を重ね、そこに板金の穴も合わせ、蝶ボルトを通して締め合わせる。
- ④ 3本のDシャックル同士も相互につなぐ。ビニールタイのゆるみ止めを忘れぬように。



分岐接続したパラペットフェンスの使い方

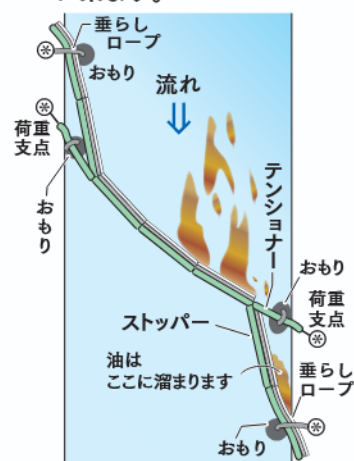
- ① 枝分かれした一方は、杭などの支点にロープで固定されて、流れの荷重を受けます (テンショナー)。重石になるものを乗せて なるべく水面に近づけるようにしてください。
- ② もう一方は、岸に並行して水面に浮かび、油を集めます (ストッパー)。こちらのオイルフェンスの上流側にオイルマットを浮かべます。



緩やかな流れではストッパーがテンショナーの上流側に来ます。

こちらのオイルフェンスは、先端に錘のついたロープを水中にたらすなどして、岸に押し付けます。

急流ではストッパーがテンショナーの下流側に来ます。



**ラフトフェンスを付けると
さらに防除力がアップします**

- 水面に浮かぶ側 (ストッパー) のパラペットフェンスだけに、ラフトフェンスをつけます。



※カタログ掲載の製品につきましては予告なく仕様・規格及び価格の変更をすることがあります。

■製造・販売元 **谷口商会株式会社**

谷口商会

検索

<https://www.taniguti.co.jp/>
E-mail info@taniguti.co.jp

